

日本ブランド発信事業

令和元年(2019年)10月16日から22日
ポーランド、アラブ首長国連邦にて和紙についての講演会を開催

(株)杉原商店代表
杉原吉直

当初スペイン・マドリードでの講演会の開催も予定していたが、台風19号による航空便の欠航のため、日程を切り詰めて、ポーランド・ワルシャワ及びアラブ首長国連邦ドバイにて講演した。

【ポーランド】

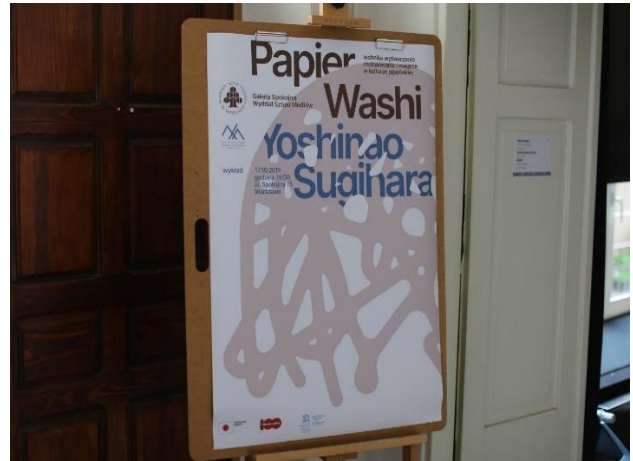
10月17日(木)(於:ワルシャワ美術大学)

台風19号に伴う日程変更のため、最初の訪問地として予定していたマドリードでの日程は急遽全て取り止めとなり、日本からまずポーランドに渡航。首都ワルシャワに到着し、すぐに和服に着替え(ちなみに全てのセミナーを和服で行った)、講演会場に向かった。

森の中に建つ別荘のような、不思議な雰囲気の中で、当日は学生よりも和紙に興味を持つ年輩の方が目立つ中、かなり専門的な内容を質問される方や、また私の説明に加え、より現地の人にわかりやすく代弁される折り紙研究者まで現れ、かなり深い質疑応答があった。

中には、電車を4時間乗り継いで、日帰りでボツナムから来場された方など、和紙をより深く知りたい、和紙を応援したいという層が、ポーランドに深く根付いていることを実感した。





10月18日(金)(於:ウッチ美術大学)

ワルシャワから車で約2時間の都市ウッチの美術大学での講演会。この大学はもともとドイツのバウハウスの流れを汲む、由緒ある大学で、建物自体もそのまま教科書に載りそうなデザインをしており、コンテンポラリーアートの中心的な大学で、中にはペーパーアートの専門教室もあり、文化財修復用の器具を応用して、紙を自分たちで作っているのには驚いた。

会場はオープンスペースの広々とした空間だったが、会場前には立ち見が出る状態で、ここでも和紙への興味の高まりを実感した。高校生、大学生と見て取れる若い男女が、食い入るように私の説明を聞き取りメモをしていた。その後の質疑応答も次々と続き、閉会后も個別に様々な質問や応援の言葉を述べて去っていった。

その後場所をかえて、和紙のアート教室で先生、生徒との懇談が和やかに行われ、ウッチを後にした。





【アラブ首長国連邦】

10月20日(日)(於:アメリカン大学ドバイ校)

大学のなかのフリースペースで行われる、昼食時間に合わせた半分授業ともとれるような集まりであったが、オープンなスペースのため通り過ぎようとしてそのまま足を止め、立ち見が出て、最後にはかなりの立ち見の人だかりもできていた。

基本的にドバイでは和紙を全く知らない学生ばかりで、それだけに東洋の不思議な素材に大変興味を持った建築学の学生が多かった。

取りまとめをしていただいた丸山准教授によると、学生の中には今まで行われた授業のなかで、最も実用性があり、興味をそそられるセミナーであったと、絶賛する声まであったとのこと。大学の建築の教授陣たちも臨席し、様々な謝辞を受けた。



10月21日(月)(於:CHI-KA ギャラリー)

現地で最先端の文化やアートを発信する地域に建つギャラリーで同地の中心的な役割を果たす、CHI-KAギャラリーでの展示は、天井の高い白い空間を利用して、素晴らしい和紙空間にすることができた。

現地の女子大学の生徒たちはもともと、アニメから日本に興味をもったメンバーであるが、和紙への興味は素晴らしく、セミナー後も盛んに質問攻めにあつた。また、来年のオリンピックに来日する予定を立てているそうで、その折には是非、福井の和紙の里に訪問するように促した。

ちょうど翌週からドバイデザインウィークが一ヶ月開催され、この素晴らしい和紙空間をそのまま展示継続したいとの要請を受けて、持参した大判和紙などをそのまま現地に預けて、翌朝ドバイを後に、帰国の途についた。

